

短歌 (投稿順)

恩人が裕にしんぜしお線香深いかほりに長谷寺の夢
温暖化気象変動各地にて被害甚大今後の課題
甲子園の鍛え抜かれた熱戦よ野球部なりし吾子は還暦
夏花火路地で見上げる町民の笑顔を染める魔法の光
初秋恒例二十四時間TV番組老齡タレント生き残りを掛け
秋の夜は遠い記憶の子育てが昨日のように思い出される
どくだみを煎じて作り葉煎茶暑さに負けぬ強い体に
久し振りに友の訪問嬉しがる積もる話しに時間忘れる
山奥で小っちゃな蟹に会いましたしみ入る岩に登るを見とどけ
美の山を紅色に染む夕焼の見事な景にしばし佇む
「今日は誕生日ね」と祝いたる在りし日の夫を偲ぶ八月
盆休み三人の子が泊まり行き水分取れと喧しく言う
山の幸奪ふも人か熊達は尋ぬる如く人里に出づ
宇治の雲中菩薩像奏でる音色刹那に永遠に
庭に椅子うちは片手に観てゐたり花火奉納に感謝をしつつ

皆野 石原 達也
皆野 根岸 詩子
三沢 眞下 杏子
皆野 大澤 貴夫
皆野 戸塚喜久雄
皆野 萩原 初恵
皆野 村田ハツ代
下田野沢 浅見 豊子
国神 藤原マキ子
三沢 新井 民子
三沢 新井 叶子
下田野 新井 節子
皆野 打木 昭廣
皆野 太幡琉美花
皆野 引間 万亀

俳句 根岸茉莉選 投稿数 16句

夜半覚めて夫の忌近きちちろ聞く
三沢 眞下 杏子
 (餅)年を重ねると、夜中に目が覚めた後眠れなくなることもあります。ふと目覚めるとこおろぎが鳴いています。夫の亡くなったのも虫がすだく夜だったと、過ぎた日々をしみじみと思う作者です。ご家族との楽しい思い出を大切に、健やかにお過ごしください。二句目、三十万人余りの尊い命が奪われた八月の原爆忌。惨害を心に重く受け留め平和を願う日です。戦って親を失った多くの子の悲惨さに胸を痛めていた作者には、親鳥を呼ぶ雛の声がいつもより切なく聞こえました。三句目、京都貴船神社は水の神をまつる水神の本宮。杜の静寂の中、太古に思いをはせて、すくった清らかな水に心が洗われる思いだったでしょう。滴りの感触が伝わる句です。

原爆忌親鳥を呼ぶひなの声
皆野 櫻井 早苗
秋風や肌へをうすく吹きぬけて
三沢 新井 民子
 貴船路の水の社の滴りよ
皆野 太幡琉美花
池の主石の蛙に秋アカネ
皆野 戸塚喜久雄
 ガラス窓守宮張りつく孫祝
皆野 小菅恭青史
野萱草燃へ移りそな墓の道
国神 藤原マキ子
 十六夜やギター片手に出ぬメロディ
皆野 石原 達也
猫も寝て静かな夜に秋の虫
下田野 新井 節子
 山畑守る友の気概や実る秋
皆野 根岸 詩子
草の花なべて小さく楚々として
皆野 引間 千鶴

「広報みなの」有料広告募集

